

# 子宮がん検診

対象 **20歳以上の女性**

子宮の入り口である子宮頸部の細胞にがんができる病気です。30～40歳代に多く、ほとんどはヒトパピローマウイルス（HPV）が原因で発症します。初期には症状がほとんどなく、自覚症状があらわれる頃には病状が進行していることが少なくありません。

**症状** 初期症状はほとんどなく、進行すると不正出血やおりものの異常がみられます。

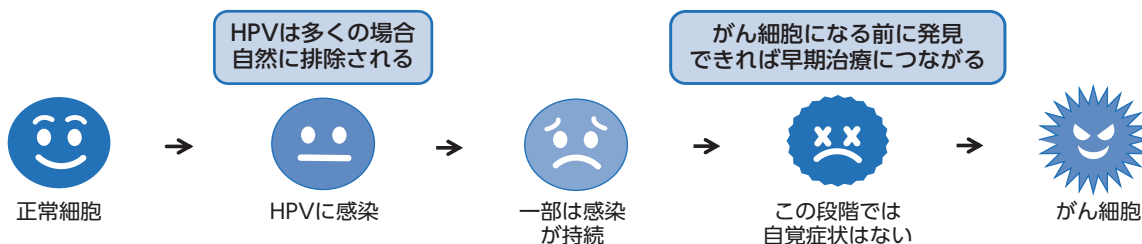
**検査方法** 視診 内診 細胞診  
細胞診では子宮頸部の細胞を採取し、がん細胞の有無やその種類を調べます。がんになる前の正常ではない細胞の段階で発見することも可能です。



## ●子宮頸がん検診 精密検査

- ・組織診：病変が疑われた部分から組織を取り標本を作り顕微鏡で診断します。
- ・HPV検査：HPV（ヒトパピローマウイルス）に感染していないか調べます。

## 《子宮頸がん発症の流れ》



## 子宮頸がん検診を受けずにいるとどんなことが考えられるのかな？

がん検診を受けないままがんが進行すれば、治癒率が下がります。最も初期の段階のがんでは、子宮頸部の異常な組織を取り除く手術（円錐切除術）による治癒率はほぼ100%で、全摘せずに子宮も温存できます。子宮頸がんⅠ期の5年生存率は95.0%です。

# 乳がん検診

対象 **40歳以上の女性**

日本の女性の9人に1人が乳がんを患うと言われています。30歳代後半から増え始め、40歳代後半に最も多く発生しています。早期発見・早期治療を行えば9割以上の方が治る可能性があります。さらに乳房を温存しながらわずかの切除手術でがんを取り除くことも可能です。がんの治療は早期に発見できれば、治癒の可能性も高く、体の負担も少なくなります。

## 症状

乳房のしこりや乳房のくぼみやひきつれ、乳頭からの分泌などが多くみられます。

## 検査方法

### ●マンモグラフィ（乳房X線）検査

マンモグラフィでは乳房を圧迫し、乳房内部を撮影します。**2年に1度**、継続的に検診を受けましょう。

### ●乳がん検診 精密検査

- ・マンモグラフィ検査：病変が疑われた部位を多方面から撮影し観察します。
- ・穿刺吸引細胞診：しこりなどの病変に細い針を刺して中の細胞や組織を採取します。
- ・乳房超音波検査

## 『ブレスト・アウェアネス』

乳房を意識した生活習慣を実施しましょう。

### ポイント

1. 自分の乳房の状態を知る
2. 乳房の変化に気を付ける
3. 変化に気づいたらすぐ医師に相談する
4. 40歳になったら2年に1回検診を受ける

## 《乳がんの危険因子》

1. 年齢（40歳以上）
2. 未婚の人
3. 高齢初産の人（出産をしてない人）
4. 初潮が早く、閉経が遅い人
5. 肥満の人（閉経後）
6. 血縁者に乳がんになった人がいる
7. 良性の乳腺疾患になったことがある

※乳がんの直接的な原因は、まだはっきりとしたことは分かっていませんが、統計的な調査によって乳がんの危険因子が明らかになっています。

